

Take action for your Future

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 No.1 H30.5.8(火)



アメリカ海外研修 (写真は水生生物の調査実習)

3/15～3/22の6泊8日でアメリカ海外研修(ワシントンDC)を実施しました。2年生28名が参加し、現代における地球規模の課題について問題を見出し、解決に導くためのプロセスを学びました。生徒は英語に苦しみながらも、「自分の英語力が足りない、もっと英語を勉強したい」ということをテストの点数によってではなく、生々しい体験として知ったようです。以下は生徒の感想です。

「アメリカの博物館でも簡単な文章のところは自分たちでも読めるのだな、ということに少し感動しました。(スミソニアン博物館)」

「私はここで真っ先に食虫植物を探した。私が今回見たかったのはウツボカズラだ。この植物にはシュミツイーという蟻と相利共生の関係にある。この蟻はウツボカズラの茎に巣を作るので、調べてみた。残念ながら、シュミツイーはいなかったが、違う種類の蟻を発見した。写真を撮ったので、調べてみたい。(米国植物庭園)」

「ホワイトハウス前で年配の黒人男性がアメリカの現状について抗議し、叫んでいた。多様な考えを持つ国であることを再確認した。」

「英語だったので、どういうものを売っているのかを確認することも大変で、レジでまごついてしまった。それでも、少しずつ相手の英語がわかるようになり、店員がオススメのものを言うてくれたときはとてもうれしかったです。日本に来た外国人もそうなのかなあと海外研修を経験する身に実際になってみて思いました。」

【武生高校の学校設定科目について】

本校SSHの学校設定科目であるbPS、bSR、PS I、PS II、SR I、SR IIのどの授業も一般的な講義形式の授業とは異なり、生徒自身が主体的に考え、動き、時には個人で時にはグループで実験したり意見を述べ合ったりする活動が主となります。

★bPS (basic Project studies)
＝課題研究基礎 1年普通科対象。「論理的思考力とは何か」ということを学びます。

★bSR (basic Scientific Research)
＝科学研究基礎 1年理数科対象。
観察実験をとおして科学的方法を学びます。

★PS I (Project Studies I)
＝課題研究 I 2年普通科対象。
1年次のbPSを活かし、「問い」も「解決手段」も自分で考えます。地元企業や市役所と連携し、課題研究を進めていきます。

★PS II (Project Studies II)
＝課題研究 II 3年普通科対象。
2年次に行った研究の発表と論理的な思考力を身につける演習をします。

★SR I (Scientific Research I)
＝科学研究 I 2年理数科対象。
学類別単元学習、課題研究、プレゼンテーションを学びます。

★SR II (Scientific Research II)
＝科学研究 II 3年理数科
SR I で研究した内容を科学論文でまとめます。

進化するPS I・PS II

PS I の授業では、昨年度より地元企業・地場産業・市役所と連携し課題研究しています。学校外の方々から、生の現場の声を聞かせていただき、テーマ設定や中間報告会で助言をしていただきました。

PS II の授業では、まずPS I の研究の成果を発表します。5/13(日)のPTA 全員協議会での口頭発表&ポスターセッション発表会を前に、現在、PP資料の修正や発表原稿の作成、プレゼンテーションの練習をしています!

ぜひ、地元愛を発揮して武高生らしい豊かな発想を届けてほしいと思います!



写真は4月初めに行われた1、2年生のbPS、PS I オリエンテーションの様子です。SSH 研究推進部長の天谷先生が、東京大学の化学の問題を用いて、文系の生徒も解ける問題を提示しながらやってみる勇気の大切さを教えてくださいました。問題を前に一生懸命解いている姿は、武高生の美しさだと思いました。

TAKEFU SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL NEWS

3年課題研究発表会

最優秀賞は

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 No.2 H30.5.17(木)

「史上最高の家庭用包丁を作る！」

5/13(日)に普通科の課題研究Ⅱ(PSⅡ)の授業の一環として「武生高等学校課題研究発表会」が行われた。今年度は**史上初「地元企業との連携」**ということで、山次製紙所、福井鉄道、アイシン・エイ・ダブリュ工業、福井村田製作所、ギャレックス、越前指物工芸上坂、越前市企画部政策推進課、水辺と生き物を守る農家と市民の会、武生特殊鋼材、福井銀行、の10のご協力を得て、2回の中間報告会も経験し、企業の問題や社会の問題についてグループで解決策を考えた。2年次の課題研究Ⅰ(PSⅠ)で研究した成果を5/9(水)に学年で企業別発表会を行い、各企業別の代表グループを決定した。代表グループの10班は、5/13(日)1・2限目に葵講堂で口頭発表を行った。3限目は1組の課題研究も交え、2年生を招待してポスター発表をし、4限目は3年生同士でポスター発表を行った。連携企業の方や保護者、近隣中学校の中学3年生(約20名)にも参加していただいた。研究の内容やパワーポイントの作り方、またプレゼンテーションにおける表現力においては、まだまだ甘いところはあるものの、日頃、教室で見せる姿とはまた別の、生き生きとした表情が垣間見え、会場は盛況であった。

【発表順と発表テーマ】

- 9-6班 「和紙は地球を救う」(山次製紙所)
- 2-9班 「Welcome to FUKUI」(福井銀行)
- 7-8班 「福井が金沢レベルに都会化するためにはあと何年必要か」(越前市企画部政策推進課)
- 7-1班 「ギャレックスの売り上げの安定と向上」(ギャレックス)
- 7-4班 「史上最高の家庭用包丁を作る！」(武生特殊鋼材)
- 6-9班 「福井鉄道に潤いを」(福井鉄道)
- 5-11班 「空飛ぶ自動車-空陸両用車-は実現できるのか-」(アイシン)
- 8-2班 「地元の伝統工芸を今後も守っていくには」(越前指物工芸上坂)
- 4-9班 「ドラえもんはつくれるか」(福井村田製作所)
- 9-8班 「若い女性の農業に対する興味を高めよう」(水辺と生き物を守る農家と市民の会)



写真左：口頭発表で最優秀賞を受賞した7-4班の口頭発表の様子

写真中央：口頭発表終了後、お世話になった企業の方々から直接ご高評をいただいている様子。どの班も、企業の方と生徒が和やかに話していた。

写真右：3限目、第2体育館でのポスター発表前の自由見学時間の様子。本校2・3年生、教職員、保護者(約50名)、企業の方々の参加となった。

PS I 地元企業・自治体講演会

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 No.3 H30.6.18(月)

6/7(木)5・6限目と8日(金)放課後にかけて地元企業さんと越前市役所さん(計10団体)に来ていただき、企業・自治体・伝統工芸の仕事の現状や課題などについて講演していただきました。これは2年生のPS Iの授業の一環であり、普通科2組～9組の生徒約280名が3～5人のグループを作り、希望する企業・自治体の講演を3つ選んで聴講しました。講演後の質疑応答も、活発に行われたところが多く、設定した25分がお互いに短く感じられました。

今後、2年生普通科は課題解決学習のテーマを決定し研究に取り組んでいきます。この活動は2年目になりますが、きっと先輩の研究内容を上回る成果を出してくれるものと期待しています。

ご協力ありがとうございます

【連携企業・自治体】(順不同・敬称略)

山次製紙所 福井鉄道株式会社
アイシン・エイ・ダブリュ工業株式会社
株式会社福井村田製作所 ギアレックス株式会社
越前指物工芸上坂 越前市企画部政策推進課
越前市産業環境部農政課 武生特殊鋼材株式会社
株式会社福井銀行



山次製紙所さん



武生特殊鋼材さん



ギアレックスさん



越前指物工芸上坂さん



福井銀行さん



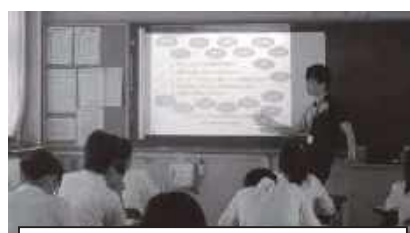
越前市産業環境部農政課さん



アイシン・エイ・ダブリュ工業さん



福井鉄道さん



越前市企画部政策推進課さん



福井村田製作所さん

7/20(金)に再び、地元企業さんと越前市役所さんに来ていただき、テーマ決定に関するアドバイスをいただく予定をしています。それまでにどの企業・市役所さんのどのようなテーマ・研究内容にするかを考えます。

理数グランプリ 結果発表

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 No.4 H30.10.22(月)



先日 9/17 (月) に本校で行われた「平成30年度ふくい理数グランプリ高校生部門 グランプリ本選」の、物理グランプリと化学グランプリにおいて、本校の2チームが奨励賞を受賞しました。
←物理チーム「いくら」
(左から)
柳下文音さん(2-5)、
齊藤花音さん(2-3)
越崎千晶さん(2-5)

同じく化学チーム「ASAHI」→
(左から)
佐々木麻佑加さん(2-4)、
上山陽菜乃さん(2-2)、
前田佳奈枝さん(2-5)、

3人とも口を揃えて、「楽しかったです。チームワークが結果につながったと思います。」と笑顔で語ってくれました。



受賞したみなさんがかけているメダルは、県内企業の「清川メッキ」さんが製作してくださったものです。今年から授与されることになりました。なんと、知恵の輪になっているのです！知的で素敵です。
来年も、武高生が積極的に参加して、多数入賞することを期待しています！



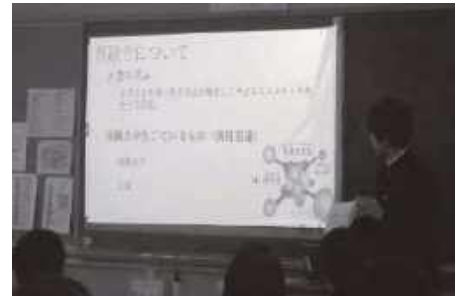
TAKEFU SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL NEWS

1年bPS、2年PSI中間報告会②

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 No.5 H30.12.28(金)

12月18日より3日間にわたり、1年bPS発表会が各教室で行われました。この1年間、自分の興味関心を抱いたテーマに沿って、調べてきた研究の成果を発表する機会です。年々、調べ方や内容が深みを増してくるのですが、今年は、「友人のおうちが歯医者さんなので、歯医者さんに話を聞きにいった。」「自分でピアノの模型を作った」自分でアンケートをとったりするなど、主体的な学びが随所に見られ、非常に興味深い内容となりました。

今後、各クラスの代表者1名が決定し、2月に葵講堂で学年発表会を行います。楽しみです。



12/21(金)1・2限に「PSI中間報告会②」が行われ、10の企業と自治体が来校してくださり、2年生の課題研究の中間報告を聞き、アドバイスをしてくださいました。

武生特殊鋼材さんのグループでは、「人間がケガをしない包丁を作る」をテーマにしたグループが中間報告をしました。包丁の内部にローラーを内蔵したり、刃先を丸くしたり、クッション素材をいれるなど面白いアイデアがでてきました。またそのデザイン画も紹介するなど、非常に意欲的な取り組みが見えました。武生特殊鋼材の河野さんからも「テーマは非常に面白い。絵よりも模型をつくってみたらどうか？」とアドバイスいただく一方で、「包丁は切れてなんぼだからね。」と違う視点でのご意見をいただきました。

他の企業・自治体でも創意工夫されたテーマや、昨年より具体的に生活に密着した内容もあり、来年度の発表会に期待が高まります。



TAKEFU SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL NEWS

武高アカデミア

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 No.6 H30.12.28(金)

今年の「武高アカデミア」はひと味違う！

12/26・27の2日間にわたり、今年も近隣の中学校18校から150名を超える中学2年生が、「武高アカデミア」に参加し、数学・物理・化学・生物・地学について高校生レベルの内容を学びました。

毎年行っている「武高アカデミア」ですが、昨年から、授業を行うのは本校の1・2年生有志たち。そして今年からは開講式も本校生徒たちの手によって行われました。また、授業者のアシスタントをするTAや受付、案内係など、すべて本校の生徒たちのボランティア総数75名で行いました。

開講式では「ようこそ武生高校へ」「2日間の心構え」「武生高校・武高生の紹介」の3つについて話すことを共通点にして、あとは開講式を担当する生徒たちに任せました。パワーポイントに写真などをいれて紹介するチームあり、ショートコントをするチームあり、アドリブで説明するチームあり、ということではなかなか面白い開講式となりました。1日目はどうしても中学生は硬くなりがちです。そこで高校生らしいアプローチでの開講式が「武高アカデミア」をより明るく楽しいものにしてくれたと思います。

授業についてですが、どの教科も大変上手に中学生とコミュニケーションをとりながら、学びを深めている様子でした。高校生たちが積極的に中学生の輪の中に入り、教えている姿はそれはそれは頼もしいものでした。

さすが、武高生！

中学生のみなさんは、きっとこの2日間、みんなが一生懸命教えてくれたこと、優しく声かけしてくれたことを覚えていると思います。そして、高校生たちにとっても、学びが深まる2日間だったと思います。

ぜひ、武高生の手で、このスタイルを進化させ、どんどん「武高アカデミア」を発展させてほしいと思います。



化学



数学



生物



地学



物理

←平成30年12月27日付け
毎日新聞

2018年(平成30年)12月27日(木曜日)

**先生は高校生
中学生に指導**

武生高で「アカデミア」
理科系の魅力伝える

武生高等学校(福井県武生市)の理科系授業が、近隣の中学校2年生に伝わる。12月26、27日の2日間、武生高で「アカデミア」として開かれた。武生高の1、2年生有志が講師を務め、中学生に理科系の魅力を伝える。武生高の1、2年生有志が講師を務め、中学生に理科系の魅力を伝える。武生高の1、2年生有志が講師を務め、中学生に理科系の魅力を伝える。

武高生に学ぼう
生物など、県内中学生に授業

武高生が、県内中学生に授業。生物など、理科系の魅力を伝える。武高生が、県内中学生に授業。生物など、理科系の魅力を伝える。武高生が、県内中学生に授業。生物など、理科系の魅力を伝える。

平成30年
12月27日付け
福井新聞



今月の公開授業

「思考するということ」

辻崎 千尋 1年7組 「国語総合」

4月16日(月)5限目に1-7の「国語総合」で授業を行った。国語における中学校までの勉強法を脱してもらおうべく、また「誰かの解答を待つ」という姿勢を払拭すべく、本時は1時間ずっと「思考する」ということに挑んだ。

(1) 頭の体操①「右」を説明してください。

頭の体操②「美しい」を説明してください。

→出題の意図は、普段何気なく使っている語句の概念を自分の言葉で説明する、ということだ。ちなみに①の解答は「左の逆」「多くの人がお箸を持つ手がある方」では解答にならない。典型的な解答例は「北を向いたときに東にあたる方角」だが、私の好きな解答は「明という漢字の月が位置している側」「アナログ時計の文字盤の3が示す側」など。

(2) 「e。(エレクトロニック) スポーツの五輪採用について、賛否を明確にしてあなたの意見を書きましょう」

→これは「天声人語」からの出題。自分の意見を理由と一緒に述べる。その後グループで話し合い、さらにグループの代表者にクラスで30秒で発表させた。「ゲームはスポーツではないという偏見が発展を止める」という意見が印象的だった。

(3) 「教科書の評論文のタイトル『水の東西』はなぜ『東西の水』ではいけないのか?何が違うのかということを考えてほしい」という問いを生徒に投げかけ、以降の授業につなげた。

武高授業改善PT(武高Active)の活動は2年目に突入しました!今年度も昨年に引き続き、「大学入学共通テスト」「新学習指導要領」「ICTの活用」「教科横断型」「第3期SSHとの連携」に向けた授業改善を目的としています。すべては武生高校の生徒のために!

H30 授業改善PTメンバー紹介

- 顧問:奥村貢(地学) 相道孝志(地歴公民)
- リーダー:辻崎千尋(国語) 小原崇裕(物理)
- 谷口典雄(国語) 山崎泰代(英語) 吉村満美(英語)
- 五十嵐基博(数学) 松原宏美(保健体育) 高橋真樹子(化学)
- 野村幸史(数学) 角正康弘(家庭科) 杉坂卓哉(地理)
- 石田恭子(英語) 鈴木和堯(英語) 谷口溪(化学)
- 今川大輔(数学) 竹林亜紀(数学) 本田千晶(地学)
- 河寄美涼(国語) 室井浩貴(世界史) 以上21名

第1回PT会議より

4/16(金)16:40~被服室にて、今年度第1回の授業改善PT会議を行いました。上記メンバーに加えて、進路部長・辻川先生もご参加くださいました。辻崎から授業実践報告のあと、相道先生から「社会を考える~中学校の制服を考える~、~士俵と女性~」「哲学カフェ~名前とは何か~」の授業実践報告がありました。続けて、小原先生から「自己管理スケジュール帳」の活用効果について興味深い報告がありました。(左記参照)その後の研修では、「今年度、授業改善PTを通してチャレンジしたいこと」をテーマにグループごとに議論しました。「ICTを活用した授業をしたい」「以前から温めていた教科横断型授業をしたい」「〇〇先生の授業を参観しにいきたい」などと活発な意見交流がなされました。ぜひ、実践のための一歩を一緒に踏み出していただければ、と思っております。

毎月1回の会議は全職員にご連絡します。息抜きする感覚でご参加くださいませ♪

【ひとりごと】昨年度は田中寿和先生が一手に引き受けて下さった通信を、今年度は持ち回りで作成していきます。昨日の職員会議後、小原先生と五十嵐先生とそれぞれ話をされていて「オープンエンド」というキーワードが生まれました。授業でどう活かせるかが今後の課題です!(4月担当 辻崎)

「自己管理スケジュール帳」の活用

小原 崇裕 教諭 2年1組

2年前に異動された鈴木聡史先生の意志を継ぎ、小原先生が昨年度からご自身のクラスで継続活用されていた「自己管理スケジュール帳」について「スケジュールの管理と成績には相関関係がありそうだ」とおっしゃっています。今後の有効活用による成績アップの実践報告を期待します!(写真は職員会議での報告)





今月の公開授業

第2回PT会議より

「4技能を育成する取り組み」

～1年英語科～

山崎 泰代 1年8組 「コミュ英」

1年英語科では新大学入試に対応できるように4技能（聞く・読む・話す・書く）を育成する取り組みを行っています。特に、「話す」を重点に置いた授業の様子を5月2日（水）1限目に1-8の「コミュ英」で公開してくださいました。

○なぜ「話す」に重点を置いたのか？

4技能のうち、「話す」を家庭学習で取り組ませるのは困難であるため、授業で取り組もうということを実践しています。

○ペアワークを実施

「習ったことを使って要約する」「あなたならどう考えるか？」についてペアワークを行っています。ローテーションでペアを替えて発表し合います。そのときに立たせたり、じゃんけんをして順を決めたりと工夫が見られました。

○聞き手の役割は重要

聞き手がうなずきながら聞くことで話し手は勇気を持って積極的に話すことができるため、聞き手の役割は重要です。

○評価の仕方

「話す」の評価の方法としてスピーチなどのパフォーマンステストと音読テストを行っています。

○取り組みの工夫

教員側が何を教えれば良いのかボンヤリしないために、レッスン毎に何をやるのかの意思統一を行う。2年生になってクラス替えがあって教科担任が変わっても生徒は戸惑うことなく授業を受けることができるメリットがある。また、内容を統一することでパワーポイントを共有できる。

○今後の課題

生徒が発表した内容を振り返る方法をどうすればよいか？振り返る方法の確立が今後の課題です。

⇒英語だけでなく、国語でも話した内容を振り返るために良い方法を探しているようで、何か良い方法はないか？と質問があり、PT会議の中でも、この話題で盛り上がりました。

タブレット等で録音させる・音声を文章に書きとめるアプリを利用するなど機材を活用すると良いのではないかなど様々な案ができました。

(職員会議での発表の様子⇒)



5/17（木）16:30～被服室にて、第2回の授業改善PT会議を行いました。出張の先生方が多い中、飛び入りで来て下さった盛高先生・酒井先生・天谷先生・田中寿先生・平井先生に助けをいただきながら有意義な時間を過ごすことができました。急遽、福井大学連合教職大学院から6名の先生方がお見えになり、ちょっと緊張した雰囲気の中行われました。山崎先生の代理として鈴木先生からの授業実践報告・英語科の取り組みの紹介がありました。4技能のうち「話す」について、生徒が話している内容をどのように振り返り指導すると良いのかについて意見交換が行われました。そのあと、相道先生から「社会を考える～福井大雪～、～セクシャル・ハラスメント～」「哲学カフェ～どんな親になりたいか～、～強い人～」の授業実践報告がありました。その後の研修では、「探究科で授業をするなら？」をテーマにグループごとに議論しました。最初に、A:常識にとらわれないで思いのままに話し合いを行い、次にAで考えたことを参考にB:現実的に考えて実現可能な取り組みについて話し合いを行いました。各班では探究科ということで「フィールドワークを1年間行う」「研究や開発を行う」など様々な活動を取り入れた授業を行えたら良いのでは？と考えているようでした。

最後に、福井大学連合教職大学院から来られた先生方から講評をいただきました。素晴らしい取り組みであるなどお褒めの言葉をいただきました。今年からPTに参加させてもらっていますが、このような取り組みを実践しようとするみなさんを誇らしく思います。県内に限らず、全国的に見ても先進的な取り組みであるPTにみなさんちょっと参加してみませんか？



【ふたりごと】

・山崎先生の公開授業では、アクティブに活動するための工夫が随所に見られました。ペアワークでも発表者は立って話す、ペアが定期的に入れ替わるなど、自分の授業でも取り入れたいアイデアがたくさんありました。

・職員会議で決められた短時間で発表を行うPTメンバーのみなさんにもいつも感謝しています。しかも、伝える内容を精選し、的確に伝えることができている。自分が発表する番になったときは大丈夫なのでしょうかね？今からプレッシャーを感じている今日この頃です。（5月担当 角正・野村幸）



今月の公開授業

第3回PT会議より

ジグソー法とICTの活用

～2年数学科～

野村 幸史 教諭 2年5・7組

6/8 (金) 2限目 2-5

○ジグソー法

- ・教科書の章末問題が当日までの宿題。
- ・その中の問題から先生が4問を指定。
- ・4人班になり、1人1問担当を決める。
- ・担当の問題が同じ生徒で集まり、解答を共有し、疑問点などを話し合う。↓



・もとの4人班に戻り、担当の問題を説明する。↑
 自分はこのような解き方をしたけど、違う解き方もあって、そちらの方が簡単に答えをだせる、というような説明をしている生徒や、班の子の説明に対して、もっとこのように説明した方が良いとアドバイスをする生徒がいた。

教員は班を回り、説明が曖昧な点などを指摘していた。

4限目 2-7

○ICTを活用した授業

- ・デジタル教科書を利用した授業
- ・予習で生徒はノートに公式を書いてくる。
- ・例題で解き方を確認し、練習問題に取り組む。
 「これ書いておいて」とメモする内容を指示していた
 →ここは大事だという点が生徒につたわりやすい。
 板書をうつすことはせず、教科書にメモする程度なので生徒の頭がしっかり上がっていた。

【よにんごと】

・「いつも、ちょっとした、トラブル」とうまく付き合いながら、ICTを活用し、生徒の興味をひきつけられるような授業を日々目指していきたいものです。

そのためには、教科に関する知識はもちろんのこと、機器にも強くならないとあと焦りを隠せません… (6月担当 石田・谷口溪・竹林・河崎)

6/14 (木) 17:30～被服室にて、第3回授業改善PT会議を行いました。PTメンバーに加え、酒井先生、平井先生、教育実習生の高原先生が参加、福井大学連合教職大学院から2名の先生方もお見えになり、授業実践報告とグループワークの様子を参観されました。今回の授業実践報告は、数学と物理の授業です。数学の2年5組での授業は「ジグソー法」を取り入れ、生徒が1人1題を担当し、他の生徒に教えるという活動を取り入れていました。この活動の「表」のテーマは「問題を理解し、教え学び合う姿勢を養うこと」、「裏」のテーマとして「別解を発見する・(他の生徒に説明するため) 解答の書き方に気を配る」とのことでした。2年7組での授業はICT活用がテーマでした。デジタル教科書を使用→解法を黒板に投影して板書の時間を省く→演習の時間を多く確保する、という実践をされていました。ICT活用の課題としては、他の教科の先生も同じ悩みを持っていましたが、プロジェクターで投影された部分は黒板に残らないため、次の問題や項目を投影したい時に生徒がノートに書き写しているのをどれだけ待つか、という点でした。また、「ICT=いつも、ちょっとした、トラブル」という野村先生がどこかで聞いてきたという名言の通り、PT会議でも野村先生の動画が再生されないというちょっとしたトラブルが起きました。そこで急遽、小原先生が先に授業実践報告をする運びとなりました。物理の授業では、まず身近な事象をクイズにしてアクティブに思考させ、その事象を物理の公式に当てはめて説明する、という流れを作っているそうです。例として摩擦力についての単元の導入として、生徒と1対1のつな引きをする中で、滑り止めをつけたらどうなるか、背中に生徒を1人乗せて引っ張ったらどうなるか、を生徒の前で実演したそうです。視覚効果も抜群だったようで、クラスはつな引きで盛り上がり、良い導入になったようです。

次に「パソコン室を改装するなら？」というテーマでグループワークを行いました。各グループで「パソコン室をこういう風に改装してこんな授業をしたい」という内容を話し合いました。各教科から色々な案が浮かび、いずれも生徒がパソコンを使いこなし、アクティブに活動しているイメージのものでした。

最後に、福井大学連合教職大学院の先生方からは「授業実践のビデオに、生徒が他の生徒に質問するまでの動き(変化)を捉えられていたのは素晴らしい、といったご講評をいただきました。

6月職員会議は、リーダー小原先生の司会と野村先生の実践報告のデビュー戦でした。お疲れ様でした！そしてありがとうございました。



今月の公開授業

古典に見る地学現象

～国語×地学～ 奥村 貢 教諭
辻崎 千尋 教諭

7/12 (木) 3限、4限 3-9

- ・3限目に古典で、「星はすばる (枕草子)」「明月記」「野分のまたの日こそ (枕草子)」の口語訳等を実施。
- ・4限目に、「すばるとは?」「客星とは?」「野分とは?」について、地学基礎の既習の内容から、答をグループワークで導き出した。「長年の思いが実現でき、すっきりした。」(奥村T談)

豆腐に見る身近な化学

～化学×家庭～ 角正 康弘 教諭
谷口 溪 教諭

7/17 (火) 2限 2-2, 3限 2-3

◎豆乳から豆腐を作り、原理を化学的に考察する
(角正T、谷口Tのコメントより)

- ・家庭科で習った栄養素が化学に結びつく種がまけた。
- ・化学で習っていることが身近に存在することを、今回の実験を通して実感することができたと思われる。
- ・作って終わりではなく、ゾルっぽくて美味しくなかったなど化学的な視点で考察できていた。

建築史と物理学

～世界史×物理～ 小原 崇裕 教諭
室井 浩貴 教諭

7/13 (金) 2, 3限 3-1

世界史の授業では、古代ローマ人がどのようにして水を遠くの場所から引いてきたのかを考えるなど、興味深い問いに対してグループで積極的に話し合っていた。物理では世界史で学んだ歴史的建造物について、力学演習や実験を通して学びを深めた。授業後のアンケートでは、教科横断型授業に対する肯定的な意見しかなく、生徒全員が興味深く学ぶことができたようである。また、この授業によって、研究してみたい内容ができたことと答えた生徒が半数おり、課題発見のためにも有意義だと思った。

ギターの弾き語りライブ

～音楽科～ 宇野 智子 教諭

7/13 (金) ～20 (金) 1年音楽各講座

・5月下旬よりスタートさせたギターのコード弾きの学習は、課題曲の中から1曲選択し、グループで弾き語りのライブとして発表することで最終段階へ。より格好いいギターの演奏にするにはどうしたらよいか(音色や強弱、リズムの工夫)、ギターと歌のマッチング、ライブを盛り上げるための工夫(トーク、手拍子等)について各グループとも様々なアイデアを出し合い、見事に初ライブを成功させた。校長先生、谷口典先生、大辻先生(ピアノ)の演奏もあり、大いに盛り上がった。

君たちはどう生きるか

～現代社会～ 相道 孝志 教諭

7/17 (火) 5限 1-8

書籍「君たちはどう生きるか」の中で出てくる少年の行為が有罪か無罪かをテーマに討論をした。討論では最初に有罪、次に無罪、最後に自分の意見の立場で議論をしていた。あらゆる立場に立つことで自分の意見が変わった生徒もいたようである。思考力と表現力の両方をのばすことのできる非常に興味深い授業であった。

【ふたりごと】

- ・やっぱり他教科とのコラボはおもしろいですね。いろんな視点で見ることができて、視野が広がります。私もいろいろと挑戦してみます!



- ・コラボ授業は準備が大変ですが、生徒は積極的に授業に参加するし、我々もあたらしい知識が増えてうれしいです。初めて世界史を勉強しましたが、楽しいです。大人になったってことなのかなあ。

(7月担当 小原・今川)

第4回PT会議より

7/12 (木) 16:30～被服室にて、第4回授業改善PT会議を行いました。メンバーと教頭先生、平井先生、福井大学教職大学院の先生方と北陸高校・中島先生もご参加いただきました。古文と地学の教科横断型授業の実践報告と「1学期の授業で挑戦できたこと、2学期の授業で挑戦したいこと」という研修を行い、グループで共有し、全体で発表しました。みなさん様々なことに積極的に取り組んでおり、多くの刺激を得られた研修でした。



第5回PT会議より

9/21 (金) 16:40~被服室にて、第5回の授業改善PT会議を行いました。メンバーのほか、教頭先生、酒井先生、非常勤講師の小泉先生と加藤先生にもご参加いただきました。

(1) 授業実践報告①奥村教諭 (地学2年7組) 「日本の自然災害～防災・減災について考える～」



(写真は9月職員会議より)

8月の課外時に実践された内容を発表していただいた。最近、日本は自然災害に見舞われている。授業では、平成16年の福井豪雨を例に挙げ、奥村先生ご自身が被災されたことを導入として、まずは生徒の意識調査(避難場所を知っているか、非常食の準備があるか、など)を行った。それから各自治体(越前市、鯖江市、敦賀市など)が各世帯に配布しているハザードマップを資料として入手、それを実際に使い、生徒に自身の家の場所を書き込ませ、避難場所を確認、避難するときに必要なことなどを考えさせた。また、津波のハザードマップから地形と津波の高さの関係を話し合わせた。今後の課題としては、「災害の話題を何もない幸せな時に行っても生徒は実感できない。授業を実施するタイミングが大事だ」と話されていた。ちなみに、同じテーマで本田先生がbSRで取り組まれている。

「最近、自然災害が多く発生しているため、防災教育が必要だと思った。各自治体からハザードマップが発行されているが、中身を見たことがある生徒は少ないのではないかと予想し、実際家にあることすら知らない生徒が多かった。この授業を通して、生徒1人ひとりの防災意識が高まっていくといい。」(奥村先生談)

(2) 授業実践報告②相道教諭 (3年倫理) 「哲学カフェ」

相道先生は精力的に生徒に「書かせる活動」を継続的に指導されている。今回のテーマは、「日本人は、他の国の人と比べて自己肯定感が低い傾向にある。このことについてあなたの考えを述べよ。」最近、日本のスポーツ界などで独裁的な人物が権力を行使して君臨していることが伝えられているが、このことについてあなたの考えを述べよ。」であった。

「この取り組みにより考える力や、表現力を育成できる。また、他者の意見を聞くことによって、自分の意見の幅が広がっていく。」

(相道先生談)

(3) 「今生徒に身につけさせたいファシリテーション」発表者：小原先生、ファシリテーター：野村幸史先生

今回の研修は、夏の東大OCで、東大生のプレゼンテーションに興味を覚えた小原先生と野村先生の発案で実施された。生徒がプレゼンする機会は、理数科はもちろんだがPSIでは普通科の生徒全員が経験することになる。よいプレゼンの能力が生徒に身につくためには、指導する私たちが「ファシリテーションとは何か」を知っておかなければならない。というわけで、【ファシリテーションとは・・・】

「環境を整え 雰囲気を作り 1人1人を尊重しながら 耳を傾け 思いかけ 受け止めていくこと」という基本的なことを押さえながら、グループで①「授業の悩みについて」②「公開授業のメリット」③「新テストに向けた新しい授業づくりについて」④「深い学びのある評価について」という4つをテーマにファシリテーターの実演を行った。最後に福井大学教職大学院非常勤講師・富永良史先生にご講評をいただいた。「～しなくちゃいけない、と思っている時点でファシリテーターが緊張しているから、よい雰囲気を育めない」「答えのない問いに対して、生徒が自由に発言できる環境を整えることが大事」など、まさに主体的で対話的で深い学びができる授業の雰囲気づくりを学べた研修であった。小原先生は、生徒にファシリテーションの力を身につけさせるのはなかなか難しく、この形式での研究発表を生徒に挑戦させることで、研究の深い理解につながるの、意味はある、この形式を武生高校教科横断型授業に発展させたいと話していらっしゃいました。



今月の公開授業

「論述形式の答案の要素をつかむ」

～国立大学二次試験対策・小説～

辻崎 千尋 教諭 3年6組 「現代文」

3年生はいよいよ演習の時期に突入した。意外と小説は生徒にとって攻略が難しい。今回は岡山の過去問を題材に、「模範解答で必要とされる要素をつかもう」というテーマで授業を行った。生徒たちはまず、解法と答えを書く。次にグループでそれぞれの答えを共有し、必要だと思う要素をまとめ、黒板に書き出す。全体で共有し確認したあと、もう一度自分の解答を作り直す。最後に模範解答を見て、求められている要素をふまえて答案をつくらることができたかどうかを確認する。生徒にとっては絶妙な問いであり、グループでの議論も盛り上がり、授業後に鋭い質問をしてきた生徒もいた。生徒の考えが深まる問いや仕掛けを、授業者は常にもっている。

【ふたりごと】

・豪雪から始まり、地震、台風と今年は自然災害が多かったですね。「自然災害大国」と呼ばれる日本に生きる私たちにとって、防災を学ぶことはとても重要ですね。(私も最寄りの避難所を調べておこうと・・・)

・高校時代にプレゼン能力を鍛える機会がもっとあったなら、今、毎回手に汗握らず人前で上手く話せたかも…。ファシリテーション能力、鍛えたい。

(9月担当 室井・本田)



今月の公開授業

「正義を考える」

相道 孝志 教諭 1年 「現代社会」

10月17日(水)1限目に1-8、18日(木)4限目に1-8でそれぞれ「学校でのスマホの使用」、「学校での宿題禁止」をテーマに討論の授業を行った。

相道先生は、討論の肝は「テーマ設定である」と断言されていました。テーマが良ければ討論は盛り上がるらしいのですが、「学校でのスマホの使用」のテーマでは、一番最初に生徒に意見を聞き挙手させたときに、反対意見が約8割と、大きな偏りをみせ、「その時点でこのテーマは失敗だったと悟った(笑)」と相道先生は穏やかに笑っていらっしゃいました。しかし、そのような場合は、先生はあえて少数派にたち、メリットを滔々とお話になります。また、「学校での宿題の禁止」というテーマを発表したときは、生徒からはうなり声のようななどよめきが起きたそうです。

授業の流れとしては

1. このテーマのメリットをプリントに書かせる
2. このテーマのデメリットをプリントに書かせる
3. このテーマに賛成か反対かを書かせる
4. 賛成か反対の理由を書かせる
(1~4は個人活動)
5. 賛成の立場の意見を発表する
6. 反対の立場の意見を発表する
(5・6は班別討論活動)
7. 討論後、このテーマに賛成か反対かを書かせる。
8. 賛成か反対の理由を書かせる
(7・8は個人活動)



印象的だった生徒の意見 by 相道先生

テーマ「学校でのスマホの使用」

規制をしてもらわないと、スマホ依存から抜け出せない。学校にいてもスマホをさわっていると友人とコミュニケーションがとれない。

テーマ「学校での宿題の禁止」

自分で自分のやりたいように、自分の勉強がしたい。
↑このような意見をもつ生徒は「宿題を禁止したほうが成績が上がる」とも言う。一方で、勉強方法がわからない生徒にとっては、宿題の禁止で成績が下がるという意見が多かった。

最後に、「討論をして自分の価値観が変わることはめったにないが、心が揺さぶられるということが大事」という相道先生のお言葉に考えさせられました。

第6回PT会議より

英語科がアツい!!



12日のPT会議では英語科・鈴木先生と石田先生からの授業実践報告が行われました。校長先生も参加してくださいました。

鈴木先生は、1年コミュ英の授業で「うまみ成分」について。専門的な知識を、ということで家庭科の角正先生にビデオレターで登場していただきました。生徒たちは、それだけで興味深く授業にのめりこんでおり様子がよく伝わりました。英語×家庭科という教科横断型授業ですが、メリット・デメリットも挙げつつ、非常に意義ある教材研究の発表となりました。石田先生は1年のコミュ英の授業で、パワーポイントを使いながら、「アフリカの貧困地帯の水問題」という内容について、ただ内容理解に終わるのではなく、生徒たちが水不足について実感できるような構成の授業に取り組みされていました。

実践報告を受けたあとの正直な感想として「英語科ってすごい!」でした。何がすごいかというと、生徒の知的好奇心を煽る教材研究の深さと、教材を学年で共有しなおかつ少しずつ改良している2点でした。思わず「生徒は、面白い授業を受けられて幸せだね。」と先生方で話してしまうぐらい、お二人の先生方が報告してくださった教材はよく作られていて、生徒の意欲を引き出し、かつ思考を深められる秀逸な教材です。新しい教材をつくられたら、また実践報告をしていただきたいと期待しています!!

10/25(木)の臨時PTで小原先生が授業実践報告をしてくださいました。小原先生が今取りくんでいらっしゃるの、物理の問題を解く過程で、

①個人で問題を解く。

②グループをつくり、生徒に解説をさせ、教え合う。

その中で、解説者と解説者の補佐としてファシリテーター役の生徒をつけて、お互いの理解が深まるように試行錯誤しながら学びが深まる授業を展開しています!

【ふたりごと】じわじわと授業改善PTにハマっている「ファシリテーション」の波・・・一緒に感じたい人は、ぜひPT会議へ遊びにきてください。11月31日(水)よ公開授業です!!

(10月担当: 辻崎・五十嵐)



公開授業を行いました

11月7日(水)の6・7限目に公開授業を行いました。県内外から約60名の方がお見えになり、研究協議まで大変活気あふれるものとなりました。

公開授業をした先生の数も増え、さらに今年は教科横断型の授業や教育総合研究所のサイエンスラボの実験配信を活用した授業など、内容も多様化しました。

今回の通信では、全体会の様子の報告と、授業をしてくださった先生方の感想を載せたいと思います。

全体会

全体会では、授業改善プロジェクトチームのリーダー・小原教諭、辻崎教諭から、この2年間にわたる活動報告が行われました。

活動の目的、内容に始まり、PT会議における授業実践報告の様子や職員会議での報告の様子については動画をまじえて説明しました。

授業実践報告は、実際の授業の様子をダイジェスト版にして、参加者の皆様に見ていただきましたが、どの授業も非常に活気にあふれており、改めて本校の教育活動の充実ぶりが校外の方に伝わったのではないかと感じました。

特に、教科横断型授業の説明をする場面では、参加者の先生方が食い入るように動画を見ておられる姿が印象的でした。他校に先んじた活動・先んじた授業というの、一歩踏み出す

時に勇気がいるものですが、それを乗り越えた時に何かを収穫できるのだと確信できました。

日々精進、生徒に還元できるよう努力あるのみ!



英語

1-2 コミュニケーション英語Ⅰ “The Power of Presentation” 鈴木和亮教諭

生徒の潜在能力に驚かされました。ペアワークで火が付いたように話し続け、私が設定した問いの不自然さをものともせず英作文を書いてくれました。分科会ではざっくばらんに意見交換できた皆さんのことを教えていただきました。



1-8 コミュニケーション英語Ⅰ “Biomimetics” 山崎泰代教諭

公開授業で多くの先生方に見ていただくと考えると、普段行っている授業の改善すべき点を気がつくことができる良い機会になると改めて思いました。



今回は1年担当で指導案をあらかじめ検討することで、かなり気が楽になり、いつも通りの授業が出来たと思います。こちらが意図していたような知的好奇心が喚起されたかは分かりませんが、生徒が教室外でさらに学びたいと考えてくれるといいなと思います。

地歴公民

1-8 現代社会「道徳教材「星野君の二墨打」から「公共」を考える」 相道孝志教諭

皆様、ご苦勞様でした。校外からの参加者も多く、大変充実した公開授業になりました。全体会の説明はすばらしかったです。辻崎先生と小原先生のコンビネーションが絶妙でした。お二人がこの説明のために大変な労力を使われたと思います。皆が見ていないところでリーダーが仕事をしていたたいと思っています。お二人に感謝いたします。

私の授業は昨年よりもずいぶん多くの先生方に見てもらえました。終わった後、私の知らない先生がやってきて、「すごく面白かったです」と感想を言ってもらえ、嬉しくなりました。分科会では鋭い質問や意見もあり、改善すべき点がまだまだあると感じました。授業を見てもらうことは大事ですね。

このプロジェクトは本校に定着しました。これからは、じっくりと継続していくことが必要だと思います。教科をこえて教員が交流する場を維持していくことを願います。



2-1 世界史A「書道の歴史と古代中国王朝」 室井浩貴教諭

公開授業ではたくさんの先生方に授業を参観していただき、コメントをいただくことができました。自分一人で授業を考えている段階では見えなかったことが、他の先生からの指摘によって見えてくるものがたくさんありました。



自分の腰の重さには自信があるのですが、このようなチャレンジの機会があると「だめもとでやってみようかな」とチャレンジ精神がわいてきます。改めて、このような機会を与えてくださった、辻崎先生、小原先生をはじめ、先生方本当にありがとうございました。

数学

2-1 数学Ⅲ「極限」 五十嵐基博教諭

指導案を書くのはやはり大変面倒くさいのですが、授業自体いつも通り割と楽しんでできたような。本校以外からの参加の方々が、プロジェクターの使用について興味津々な人が多く、分科会でも盛んに話題に出されていました。



良くも悪くもその使用について具体例を見せられた点は貢献できたかなと思います。

2-9 数学B「ベクトルと図形」 坂東雅彦教諭

久しぶりに多くの先生方が教室に足を運んでくださった公開授業でした。刺激も多く、有意義な時間を過ごすことができました。

また、提案型の授業のつもりで盛り込みすぎてしまいましたが、本校の生徒の可能性の大きさを見ることができました。

なお、公開授業はどんどん実施していくことが望ましいと考えています。

というより、常に公開授業でいいのではないでしょう。大々的に実施するのは大変ですが、日々の研鑽のために、形式の面でも改善をしていくといいのではないのでしょうか。



国語

1-5 国語総合 「漁父辞」 谷口典雄教諭

私は、ふだんは生徒の状況を見ながら授業のペースを決めています。生徒が想定外のところで躓くこともあるので、予定外の所で時間がかかってしまう場合があります。そんなとき私は、その単元の時間数を増やしたり、予定していた内容の一部をカットしたりして調整します。授業プランも大まかな流れだけを作って臨むことが多いので、今回の公開授業で、久々に「きちんとしている（ように見える）授業案」を作りました。作ってみて、色々気付いたことがありました。

その一つは、やはり授業は生徒の反応を確かめながら展開していくべきです。授業案がその柔軟性を縛るものであってはならないということ。そしてもう一つは、それにもかかわらず、授業案を作ることには意義があるということです。授業案を作ることで、その教材の面白さ（値打ち）が、よりくっきりと見えてくるといふことに、改めて気付きました。



1-6 国語総合 「土佐日記 門出」 水嶋勝彦教諭

進学校に何年もいると教材研究がどうしても疎かになる。そんな中で公開授業をするにあたりいつもの何倍も時間を割いて教材研究した結果、新たな発見もあり非常に刺激になりました。



この歳になると劇的な授業改善はできないと思い、古文のオーソドックスな授業に本時の深い学びを加える授業形態をとりました。しかし、教材研究をしているうちに内容を増やさなくてはならないことに気づき、タイトな時間配分になってしまいました。その結果、本時の深い学びである考える時間が中途半端になってしまい後悔しています。1年6組の生徒はパーフェクトな態度で授業を受けてくれたのに誠に申し訳ないと思っています。

当初は「辻崎先生にだまされた。」と言っていました。このような機会を与えてくださった辻崎先生には本当に感謝しています。また、このような機会があったら声をかけてください。ありがとうございました。

理科

1-4 化学基礎 「酸塩基の強さ」 高橋真樹子

今回の公開授業では、普段実験はせず、さらっとやってしまうような内容について、実験を取り入れるという試みをしました。ですので、授業内容を考えることが正直、すごくつらかったです。



ですが、公開授業を行うということで気合いも入りまし、どこで考えさせるか、どう発問をして生徒の心を動かすか、ということを考えるよい機会となりました。今回だけのイベント的な授業にせず、今後も続けていきたいと思っています。

2-3 化学 「反応速度」 谷口溪教諭



今回全く絵を使わない実験レポート（風プリント）、ループリック、データ処理など初めてのことを行ってみました。生徒たちのもつポテンシャルは思っていたよりも高かったです。

お互いに助け合うだけでなく、私も助けてもらった面がたくさんありました。時間が足りなくなるのが問題ではありますが、これからは生徒と Science していきたいと思いました。

貴重な機会をありがとうございました！

2-4・5 生物 「光合成と葉緑体」 酒井哲弥教諭

サイエンスラボと協働で授業を進めたため、打合せが大変でした。しかし、本番では双方の呼吸が合い、何とかうまくいったと思います。



グループ活動では、生徒から想定外の考察が出てきて、ドキッとさせられる場面もありましたが、1時間が短く感じられるほど楽しみながら授業を進めることができました。他校の先生にも実験配信に興味を持っていただけ、よかったです。

2-4・5 物理 「ドップラー効果」 小原崇裕教諭

今回、課題の設定に失敗してしまいました。生徒は活発に活動してくれたのですが、課題設定で失敗しているため、当然教員側のねらい通りにはならず・・・。



この失敗を防ぐために必要だったことは「科目内の教材共有」です。ここを怠ってしまったために、今回の公開授業でとても悔しい思いが残ってしまいました。しかし、やったかたこそ、失敗することができました。そしてこれから同じ失敗はしません。この公開授業で確実に前へ進むことができました。これからもいっぱい失敗しながら成長していきます。今回は良い機会を本当にありがとうございました。

教科横断型

2-7 古典・地学基礎 「土佐日記・羽根」

古典担当 河寄美涼教諭

先生方、お疲れ様でした。そしてこのような機会を与えてくださった奥村先生、本当にありがとうございました。

私自身初めての教科横断型（そして初めてのプロジェクター）ということで、課題もたくさん見つかりましたが、収穫もたくさんありました。何より、普段はあまり見ることのできない、学んでいる時の生徒のいきいきとした表情を見られたことが私にとっては大きな収穫でした。（他教科、ということで国語の時間にはあまり発言をしない生徒が積極的に活動に参加していたことと、一人で前に立つと持たない余裕が、今回奥村先生がいてくださるおかげで持てたというのが理由です。）

分科会でご指摘いただいた評価方法等の課題については、今後も引き続き考えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



地学基礎担当 奥村貢教諭

河寄先生のおかげで、授業中も楽しく過ごせました。また、2年7組の生徒も、たくさんの先生方がいる中で、前で発表あれほど堂々と発表できると思いませんでした。見直しました。

今後の課題としては、分科会でも出ましたが、評価をどうするかです。教科横断型？の場合、どちらの教科で評価するのか？どちらでも評価するのか？今後、考えていこうと思っています。

11月PT会議より 11月に行われた「大学入学共通テスト」

の試行問題の分析を行いました。校長先生、酒井先生、林昭彦先生、平井先生も参加され、どのような変化があったかを各教科から報告していただきました。内容については、次回の職員に会議で共有したいと考えています。

【ふたりごと】

・公開授業では、チャレンジしている先生方が本当にキラキラしていました。私も、いろいろなことにチャレンジしたい！と思えたすばらしい1日でした。
・公開授業を無事に終えることができてほっとしています。得た知見を普段の授業に生かしていきたいです。

(11月担当 高橋・鈴木)



武生高 読売教育賞最優秀賞 受賞



田中校長(中央)、授業改善PTのメンバーら武生高校教員

副賞の盾

先日、武生高校『授業改善プロジェクトチーム』が第67回読売教育賞「カリキュラム・学校づくり部門」で最優秀賞を受賞いたしました。教科横断型授業をはじめ、武生高校の教員一人一人の先進的な取り組みが高く評価されました。教員の力だけでなく、本校生徒の優れた資質や積極的な活動姿勢、ひいては保護者の温かいご支援が大きな力となりました。

審査員の佐藤学教授(学習院大学特任教授)からは、「高校の授業改革における卓越した実践事例の一つ」「教科の枠を超えてベテランと若手が学び合う教師の研修としても生徒の学びの改革を実現した実例」と高い評価をいただきました。

今回は改めて授業改善PT(以下PT)の活動をご紹介します。



そもそもPTで何をしているの？

- ・アクティブラーニングの導入
- ・ICTを活用した授業の実践・研究
- ・教科横断型授業の実践・研究

等の活動をしています。月に一度のPT会議で教科を超えて意見を交換し、職員会議では授業実践報告などを通して全教員に活動の報告をしています。



教科横断型授業の様子(物理×世界史)



(古典×地学)

何のためにするの？

- ・大学入試共通テスト(新テスト)対応
- ・新学習指導要領対応
- ・予測不可能な社会を生き抜くために

新テストでは、幅広い知識だけでなく、思考力・表現力・学びに向かう力などが問われていくと予想されます。また、これらの力はこれからの社会で生き抜くために必須となる力です。武生高校で生徒にそのような力を身につけてもらうために我々は活動しています。全ては武高生のために。

その他、日々の活動の記録を本校HPに毎月掲載しております。是非ご覧ください。

活動のメリット

新テストや新学習指導要領に対する教員の意識向上になります。また、授業実践によって生徒の知識や理解力だけでなく思考力や表現力などこれから重要となる力を我々が把握する機会が増えます。

今後の課題

①生徒の力を見極め、考えて実践

これまでの実践を踏まえ、育てたい生徒像を確立し、生徒のニーズと合致させていきます。

②教科で共有、学校全体で共有

情報をPTだけのものにせず、武生高校全体で共有し、全ての生徒に還元します。